

# ヒロシマ ユネスコ

## ユネスコ会員綱領

心の中に平和の守りを固めよう  
 すべての人間の尊厳を重んじよう  
 教育・科学・文化の発展に努めよう  
 民族間の疑惑と不信を除こう  
 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

## 私とユネスコ



# 本質の把握に研さんを

## 国際交流、平和文化推進のために

広島ユネスコ協会  
 副会長 小倉 馨

「ユネスコ」という言葉の響きは、何とも言えぬハイカラで優しく、学がありそうでぬくもりを感じさせる。そう感じた私のその時の境遇を説明すれば、むべなるかなと納得していただけたと思う。

あの忌わしい太平洋戦争が終結し、一年間南方の島に留められ、やっと内地の土を踏んだ時は、やせこけた栄養失調の復員軍人であった。戻って来た広島は、原爆という恐ろしい兵器のために灰燼になっていた。

折りも折、国際連合ができ、ユネスコという言葉が、その日本語訳の国連教育、科学、文化機関の文字を見たとき、涸れて失われかけていた自分の青春の血が俄かにじーんと赤い色

を取り戻した気がした。以後、ユネスコという活字に接すると飢えたようにむさぼって、記事内容を追ったものである。

この十月上旬、民間ユネスコ運動三十周年の大会に出席する機会を得たが、全国から集まった会員の年齢層が余りにも高くしかも多かったことに驚いた。なんと年老いたユネスコ会議だろうとふと思った。二十代の若々しい青年男女がいかに爽やかに眼に映った。社会の核をなすべき三十一〜四十代の姿が少なかった。これは大会の意見発表の場で事実指摘された。

ひょっとするとこの集まっている方々は、戦後荒廃した日本の土に、新しい文化、希望を見出し、若いエネルギーをそれぞれの地方地方に注いで、ユネスコ運動に身を投じたのではなからうかと連想してみた。私の心をくすぐったあのユネスコの

つ響きに同じような感受性が作用したのかも知れない。

三十〜四十代の年齢層が薄いのは、ちょうど日本が経済成長期に入り、頂上に向かって走った時代に青年期を過ぎたのではなからうかと考え込んだ。

その後、私自身は国際文化交流の職業に直接関わることになり、ユネスコそのものとの関係は無かったのである。

それが計らずも広島市にユネスコ協会が新たに発足するにあたり、青年部の諸君と接触ができ、これに大きく触発されて初めて正式に会員となった。

思うに、国際交流といい、文化・平和の問題の何れを取り挙げても、実にその本質の把握が難しいと悩んでいる昨今、いよいよ会員の皆様と研さんを重ね共にユネスコの精神を極めたいと念願している。

あけまして  
おめでと  
うござい  
ます

昭和53年（1978年）

広島ユネスコ協会

名誉会長 荒木 武（広島市長）  
 会長 永井 滋郎（広島大学教授）  
 顧問 内海 巖（市立中央図書館長）  
 ほかに役員一同

# 日本ユネスコ運動全国大会に出席して

民間ユネスコ運動三十周年を記念して「第三十三回日本ユネスコ運動全国大会」が、今こそ地球市民の連帯をテーマに、昭和五十二年十月八・九・十の三日間、東京・日比谷公会堂とオリンピック記念青少年総合センターを会場として開かれた。

初日の八日には開会式と永井道雄氏の記念講演があり、九日にはシンポジウムと、教育活動部会、文化活動部会、国際交流活動部会、組織および運営部会の四つの分科会、十日には分科会を総括する全体会議と閉会式がそれぞれ開かれた。

広島ユネスコ協会からは、永井会長、小倉副会長らが出席したが、ここでは、参加した青年部の三人に感想を書いてもらった。

## 真の国際理解を考えよう



白石 まゆみ

広島ユネスコ協会青年部にあって、一年にもならない私は、期待と不安とを胸に抱いて、初めて全国大会に参加した。話し合われた内容は、少し抽象的で高度なものだったが、ユネスコが全国的な大きな組織であり、多くの人たちに支えられているのを改めて感じることができた。そして、このようなユネスコのもとで活動できることを誇りに思った。

この全国大会で最も印象に残っているのは、私が参加した第三分科会Bの国際交流活動部会である。この部会は、国際語について(エスペラント、語交その他)日本語でできる国際交流、子どもに国際性をもたせるような家庭教育の必要性、イデオロギーの問題などの内容で話が進められていった。言葉があつて完全な国際理解ができるのだが、何

か僕自身が、言葉によるのではなく、国際理解は可能であるという意見が、新聞、雑誌、絵画などを媒介として交流が深められていくこと、言葉による問題が、ついで、いかに一人一人にかえれば心のよりどころができるということであり、この問題をあえて、自分自身にとり、大会で大切だということに部会を結ぶ。

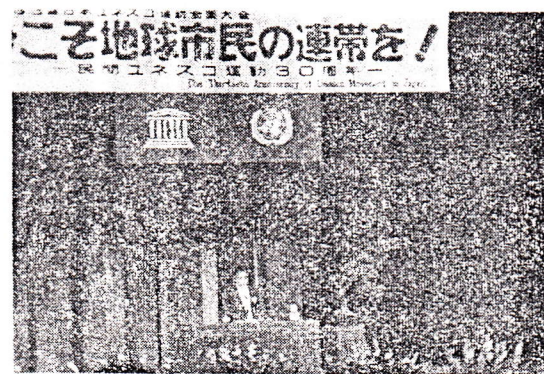
今思うに、私自身ユネスコの国際交流の活動において、真の

## 役立つ青年同志の話し合い

兼田 是樹



全国大会に初めて参加した私は、ユネスコの活動経験自体浅



国際理解をしていかなければならない、本当の国際理解をもう

一度みんな考えてみたいと思

大きな全国組織の中で、各ユネスコはそれぞれの地域に根ざした活動を行う必要がある。自分の見聞を認めて、自分の見聞を認めて、本当の国際理解が必要だ。永井道雄氏の講演は、

「ルーレットは地域ごとの」という言葉が、強く私の頭に残っている。

(青年部)

全国大会での永井元  
文部大臣の講演

このたびは、根本精神から離れてしまったような気もしないでは  
ありませんでした。

今回大会に参加して、最も自分の役に立ったことと言えば、夜に眠れぬほど惜しんで行われた意見交換です。時間的には少なかつたかもしれませんが、青年だけで行われたこの場が、今大会の中で最も素直に自分の中に入ってきて、今後の方向付けに役立つものとなったように思います。

(青年部)

# 友情の輪を世界に広げよう

石倉道子



さる十月八日(土)から十月十日(月)までの三日間、東京において第三十三回日本ユネスコ運動全国大会が、「今こそ地球市民の連帯を」というテーマにもとづいて催された。

第一日目の会場となった日比谷公会堂のロビー前には、広島長崎の原爆の写真が展示されていた。

開会式などに続き、永井道雄氏の記念講演があった。南北問題にからせての核兵器問題はこれから多くの議論を呼ぶテーマとなるだろう。原子力発電がこれからますます必要となり、発電所も世界的に増えるだろうが、核兵器を悪利用しようとする少数の人々がそれを使った場合、大戦をささげることができらうか……。また、米・ソ・中・仏・英以外の国々が将来核兵器を持ち、各国にそれが広がっていった場合の世界的コ

ントロールはどうなるのだろうか。

国連大学が日本に誘致されることになっているが、エネルギー危機以来、国連大学の基金収果がひどくむずかしくなっているようだ。しかし、ユネスコも大いに協力している国連大学建設・運営に対して、私達ユネスコキヤンは何か少しでも協力できないものだろうか。

日本が一番近い韓国では、日本の新聞が毎日数万部読まれているが、しかし日本には最近まで韓国語の辞書がなかったという。これは、まったく意外な事実だった。

最後に、日本人のルーツを考えるとなつて、日本人のルーツ・歴史的ルーツはそれぞれの郷土にきこみ込まれていて、今や地方各都市がその文化をほりおこしている……と話された。

第二日目午前中のシンポジウムに続いて、午後から分科会があった。第一・教育活動部会、第二・文化活動部会、第三・国際交流活動部会、第四・組織および運営部会と分かれていて、そのうち、私は第三部会に出た。

海外旅行・研修旅行・留学生などを対象に実際に交流している人々の話など、よびよる発言が多かった。

日本においても、定年離職以上のの人々にとって、大規模な見直しが必要なものがある。その、それのない若い人々に期待が向けられていた。

また、ここは日本であるし、最近では日本語を話す留学生も多いため、日本語での交流、日本文化などの紹介もできるはずだ。

という意見、また、世界には多数の言葉があり、英語だけでなく他に一つくらい外国語を身につけたいという話も聞かれた。

国際交流といっても、それだけ現状・文化・習慣・国民気質などをお互いに大きな心を持って理解し合うことで、それはユネスコ精神そのものであると同時に、必要にしてこそ深い大きな努力が必要であると思った。

第三日目、全体会議のあと、この三日間の大会の幕は無事お



全国大会に出席して各地域代表との交流の輪がひろがりました。

えされた。

第一日目、ハロック風内装のさびた日比谷公会堂に集まった人々の熱い歩みは、二日目から会場はオリンピック記念青少年総合センターに移されたが、今回の大会が東京で催されたのにもかかわらず、出席者は例年よりかなり少なかった。このところの内外のユネスコ運営上の問題は、私にとって全国大会で実際の目で見、聞き、ユ

ネスコの将来への不信と不安をぬぐいられないものになってしまった。理念のすばらしさや元は、現実的に実行のむずかしいことがあまりにも多く、ジレンマに悩まされている私は、この三日間をとおして何か希望の糸目を探していたが、結局私の心の中には解決の得られないままのいら立ちしさが残っていた。

今、全国大会が終わって静かに考えてみると、人間一人一人がより心をみがき、大きな心を持ち、一人一人のかかわり合いやつながりを大切にすることからユネスコ精神の一步が始まり、それにより友情に満ちた輪が地球上につながり、広がっていくばこんなにすばらしいことは、大いと思えていく。

みやすそうで、とてもむずかしい現実問題だ！ (青年部)



私がユネスコ青年部と出会ったのは、一昨年の十月でした。友人からユネスコ青年部では、特に男性が足りないのです、手伝ってもらえないだろうかと言われ、ユネスコについての知識もなく、興味すら持ち合わせていない状態で、青年部の定例会に通いはじめました。

自分が楽しく有意義な時間がすごせれば、一匹狼の方が気楽で良いと考えていた自己中心的な自分には、ユネスコ精神・理念・目的及び国際教育、平和等



あんてな

### 永井会長が渡米

永井会長は、昨年十一月下旬から半月間渡米した。

これは、オハイオ州シンシナティで開催された全米社会科研究協議会年次大会国際討議に、日本代表として出席するためで大会後、今回はとくにニューヨーク・コロンビア大学における成人教育研究会で「日本人の成

### ユネスコで自分を見つめたい

田川 清

一層深く見つめなおすことができたことは幸せでした。しかし

自分の弱さ、足りなさ、小ささ等々、あせりを感じないわけにはいきませんでした。ちょうど、その頃、次期部長にならないか

人教育」と題して講演した。

ユネスコにおいても、成人教育についていろいろと論議されている折から、会長の講演の成果もあり、同時に、成人教育研究会そのものも大変興味深いものがあつたという。

### 青年部主催の「世界

### における児童画コン

### クール」入選決まる

子どもたちの絵画をつうじて国際交流を推進するとともに、子どもたちに世界へ目を向ける機会を与えることを目的に開催

恥をかきまくろうと、一大決心をした次第です。

部長になって、もう六か月たちました。今は自分と他人との関係について、自分一人では生きていけない、他人を幸せにして初めて自分も幸せになれる。

された「世界における児童画コンクール」の入選作百点が、十一月二十七日決まった。

これは、青年部が祇園町子ども会育成連絡協議会と共催し、べんてるの協賛を得て、祇園町の幼稚園、小・中学生を対象に実施したもので、一か月という短い募集期間にもかかわらず多くの作品が寄せられた。

なお、入選作百点は表彰・展示されると同時に、ドイツのロードヴィヒハーフェンに送られ

当地でも展示される予定。青年部では、今後、これをド

自分たちだけの幸せはありえない。頭で理解できても、心の底から行動になって湧きでてこない。こんな自分自身とのジレンマに悩みながら、自分自身とま

私はいま一生懸命ユネスコ活動に取り組んでいます。会員の方々の助言や叱責をピンピンお受けしたいと思っていますのでよろしくお願いします。

(青年部長)

の児童画交換に発展させ、対象も市内全域の児童とするよう努力して行く考えである。

### 「世界の児童画展」

### 祇園公民館で開催

青年部は、昨年十一月六日から約一か月間、オーストリア・ドイツ・インドネシアの子どもの絵五十点を、祇園公民館ホールに展示した。

これは、同公民館の「ぎおんひろばの日」に、広ユ協青年部が参加したもので、展示された絵

### 第四回ユネスコ青年セミナー開催される

昨年十一月十二・十三の両日府中青少年文化センターにおいて、青年部主管のもとにユネスコ青年セミナーが開催された。

これは、多くの青年にユネスコ活動について知ってもらい、その輪を広げようという趣旨で毎年開かれていたもので、今回で四回目を数える。第一回参加者によって青年部が結成されたことなどのいきさつもあり、広ユ協にとっては意義深いセミナーとなっている。

今回は、五名の留学生のほか三十名もの参加者があり、ユネスコ紹介、留学生との交歓・討論、小倉副会長による「国際理解に果たす青年の役割」と題する講演など、盛りたくさんの中にも内容の濃いものであった。

今号は青年部特集のような内容になったが、それだけ青年部にかけられる期待が大きいことを諸君はキモに銘じて、これからも「広島ユネスコ」の中核として活動してほしい。

(編集メモ・高橋記)